

WHITE

文京区立第九中学校
第2学年だより 第16号
2026年9月1日
2学期スタート！＝79日間

“挑戦と成長の79日間”～九中の要として輝く2年生へ～

79日間の2学期がスタートします。今学期は、「職場体験学習」「演劇鑑賞教室」「学習発表会（合唱コンクール・舞台の部）」など、学年や学校行事が数多く予定されています。また、定期考査も9月の中間考査と11月の期末考査の2回あります。さらに、部活動では、上級生として1年生をリードする2年生の役割が本格的に始まっていることでしょう。

学校の組織では、生徒会役員や後期生徒委員会が新たな体制へととなります。3年生は卒業後の進路実現に向けた生活が中心となるため、これからの“九中の要・柱”となるのは私たち2年生です。皆さんには、校内外のさまざまな場面で活躍することが期待されています。これまで3年生から学んできたことを生かし、今度は私たち2年生が1年生と共に活動し“よりよい九中”を築いていきましょう。

また、“九中生としての自覚と責任ある行動”を習慣にするために“あじみせこ実践”を推奨してきました。いつでも、どこでも、だれにでも“挨拶・時間・身だしなみ・整理整頓・言葉遣い”を意識し、“素敵な2年生”を目指しましょう！

【9月の予定】

2学年の後半が始まります。学校・学年行事を進めながらも、定期考査（中間考査）に向け、生活リズムを整え、授業に集中し、健康的な学校生活を過ごしましょう！

日	月	火	水	木	金	土
		9/1 始業式 防災引き渡し訓練	2 給食 始 生徒委員会(前期)	3	4 職場体験事前学習 マナー講座	5
6	7 生徒会朝会 安全指導	8	9	10 テスト2週間前	11 職場体験 事前訪問	12 土曜授業公開 ①道徳授業 地区公開講座
13	14	15	16	17 テスト1週間前 立会演説会	18	19
20	21	22	23	24(給食なし) 定期考査	25(給食あり) 定期考査	26
27	28 全校朝会 ①カット 生徒委員会(後期)	29	30	10/1 都民の日	2	3 文化の日



関東大震災 1923年9月1日 午前11時58分 M7.9

被害状況 死者・行方不明:10万5千人 家屋の倒壊:2割、火災:8割により命が失われる。

過去の事実を教訓として、「災害について正しく知り、日頃から備えを大切にしよう」という願いを込めて「防災の日」として定められました。

自然災害から考える地球と人の健康

今年の夏休みは、例年と比べて“厳しい暑さとなり全国各地で 40℃近い危険な暑さ(=酷暑日)が観測されました。また、熊本や関東での、地震、千葉や富山、石川などで発生した豪雨による水害など、人命や当たり前の日常生活を一瞬で奪ってしまう“想定外の被害をもたらす自然災害”が、国内各地で発生しました。さらに、海外においてもインドネシアでの地震や中国・ネパールでの土砂災害などが発生しており、自然の猛威が地球規模で人々の生活に大きな影響を与えています。

皆さんは、4月に実施した「防災宿泊体験学習」や12町会活動で学んだ「地域の防災活動」の内容を覚えていますか。地震や大雨、暴風による一次災害や二次災害、電気や水道などのライフラインが停止した生活、自分や家族の命を守るための「自助」、地域で支え合う「共助」、そして地域や国の復興に向けた行政による「公助」について学習しました。連日報道される災害のニュースを見ていると、自然災害は決して遠い地域だけの出来事ではなく、私たちの身近な場所でも起こり得ることだと実感します。だからこそ、「私たちはどのような知識を学び、どのような備えをするべきか」を、一人ひとりが自分事として考えることが大切です。

また、私たちは自然の恵みの中で生きている一方で、その自然の大きな力と共に生活しています。この機会に、近年深刻化する気候変動や環境破壊についても考えてみましょう。「地球の健康」と「人間の健康」をともに実現しようとする考え方を「プラネタリーヘルス」といいます。未来を担う皆さんが、環境に優しい行動や持続可能な社会づくりについて考え、できることから実践していくことで“よりよい未来・地球”につながります。防災の日を機会に、「自分の命を守るために何ができるか」「地域や社会、地球を守るために何ができるか」を改めて考えてみましょう。

※皆さんのご家族、親戚、知人で被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。

8月13日(木)東京ドームにおいて、文京区内の中学生と石川県輪島市の中学生がスポーツを通して交流する「街と能登の応援フェス 復興祈念スポーツ交流会」が開催されました。令和6(2024)年1月1日に発生した能登半島地震では、最大震度7を観測し、多くの地域が甚大な被害を受けました。学校(教室・校庭・体育館)は避難所となり、子どもたちは学習や遊び、運動やスポーツする場所を失いました。また、地域の公園や広場も安全に利用できない状況となりました。このような状況の中、「子どもたちに運動を、子どもたちに笑顔を!」という目的で、日本サッカー協会が主催となって始まったのが、この復興支援事業です。今年で3回目を迎え、今回が最後の開催となりました。本校からは〇〇〇〇さんが参加しました。当日は元日本代表の皆さんも加わり、輪島市と文京区の中学生が合同チームを編成して、さまざまなスポーツを通して交流を深めました。その後、輪島市の中学生による被災体験の発表が行われました。当時の様子を写真やスライドで紹介しながら、地震発生直後の不安や避難生活の苦労や生活の様式について、話してくれました。災害を自分事として考えるとともに、人と人とのつながりや支え合うことの大切さについて学ぶ貴重な機会となりました。

